

2014（平成26）年度後期 DUO リーグ会議 議事録

【日 時】 2014（平成26）年12月21日（日） 17：00～19：00

【場 所】 筑波大学附属高校会議室

【出 席】（氏名）※下線は遅刻

都小石川（宗友）、昭和一（永井）、三菱養和（山本）、京華（小金丸）、都向丘（北洞）、筑波大附（速水）、学習院（玉生）、本郷（岩野）、郁文館（井上）、駒込学園（宮坂）、巢鴨（山中）、立教池袋（橋本）、獨協（神宮寺）、淑徳巢鴨（石原）、日大豊山（海老根）、都文京（中村）、都足立（山野）、都江北（蓑輪）、足立学園（伊藤）、都荒川商業（智片）、中大高（加藤）、都足立西（栗山）、都千早（竹内）、文京区中学生選抜（井上）、FC西巢鴨03（岸）

【欠 席】

都竹早、豊島学院、城西、豊南

【オブザーバー：選手】

大坪（都荒川商業）、許（筑波大附）、岸田（筑波大附）、渡部（郁文館）、浅井（都足立）

【オブザーバー：一般】

大河原（筑波）、馬場（巢鴨）、辻（郁文館）、三ツ矢（FC西巢鴨03）、岡田（リゾスポ）

【議事録作成者】岸卓巨（事務局長）

議題

I. 理事会より

1. チェアマン人事とDUOリーグの組織
2. 事務局の移管
3. 2014年度の総括
4. 2015年度の準備
5. その他

II. 各担当より

1. 事業部門（岩野）
2. 管理部門（井上）
3. 企画部門（岸）

III. その他

DUO リーグ会議要旨

【決定・承認事項】

- ・2015年度DUOリーグチェアマンは本郷高校の岩野先生に決定
- ・2015年度事務局業務をサロン2002に委託することを決定
- ・2014年度後期イベントMVPは清次奎太君（足立学園）に決定
- ・2014年度特別賞は郁文館高校に決定

【今後の検討事項】

- ・G本郷、FC西巢鴨03の星取表における扱いについて
- ・1部リーグの通年制と、3部リーグの設立について
- ・警告の累積による出場停止の確認方法について

- ・未加盟クラブについて

【その他】

- ・審判講習会は3月中に開催予定

=====

I. 理事会より

1. チェアマン人事とDUOリーグの組織

玉生「理事会において、来年度のチェアマンを岩野先生にお願いするということになりました。この場で承認をお願いします。」⇒承認

玉生「今回は理事会で来年度のチェアマンを考えていきました。しかし今後に向けて、チェアマンの新しい選出方法やルールがあれば、検討していきたい。組織図に関しては、今まで通りの形で来年度も進めていきたいと思います。」

2. 事務局業務の移管

岸「事務局長の岸が、来年度から日本スポーツ振興センターに就職し、Sports for Tomorrowの事務局の仕事をするということになりました。その関係で、中塚先生がチェアマンをされているサロン2002に事務局の業務を委託することになりました。」

岩野「理事会でも事務局にかかる費用についての議論などもありましたが、サロン2002に委託するという意向になりました。よろしいでしょうか。」⇒承認

3. 2014年度の総括

1) 後期イベントデー

・チャンピオンシップ

岩野「後期イベントを振り返りたいと思います。今季は全6回のイベントを行い、チャンピオンシップは10チームで行う予定でした。しかしG本郷と本郷Θが新人戦の関係で欠席となりました。本日、8チームでチャンピオンシップを行いました。」

井上「4チームずつの2つのリーグにわけて行いました。それぞれのリーグの優勝が郁文館B、足立学園となり、決勝戦を行った結果、2014年度後期のチャンピオンは足立学園になりました。MVPの選出はまだです。」

岩野「優勝の足立学園からMVPを決めたいと思います。」

伊藤「では、MVPは清次奎太君にしたいと思います。」⇒決定

岩野「郁文館はすべての試合に出席し、会場提供もし、後期イベントに大きく貢献してくださいました。郁文館を特別賞として表彰したいと思います。」⇒承認

・各クラブの現状について

岩野「中塚先生から、筑波大附についての現状かかれたものが資料としてあります。各加盟クラブが後期をどう過ごしていたのか。主催しなかったクラブはどういった理由なのかなどの現状を聞きたいと思います。」

玉生「地区トップリーグに参加し、通年で試合をしていたので、開催は難しかった。」

岩野「後期のイベントが始まって2シーズンたちました。後期がリーグ戦形式で行われていた時は、余裕がないという状況でした。現状を知ることで、来期以降につなげてきたい。」

宮坂「今回は、選手権までしっかり戦うことができたので、余裕をもって今シーズンを過ごすことができた。後期はこの体制がいいと思う。」

岩野「本郷会場では、1年生が主体となり運営をやってくれました。1年生の横のつながりもでき、成長も見られた。郁文館や京華のフットサルも参加しました。サッカーとは異なりバスケットの要素も入り面白かった。それをまたサッカーに還元できた。後期の各クラブの現状については、アンケートを作成し、MLで皆さんに伺いたいと思います。」

・テーピング講習会

岸「DUOからは7クラブ65名で、筑波大附の会議室と2-1の2会場で開催しました。テーピング講習会とアイシング講習会の両方の講習会を行いました。サッカーのプレー以外にこのような学習もいいと思います。東京リゾート&スポーツ専門学校の生徒にもいい経験になったと思います。」

2) 2014年度 前期DUOリーグおよび上位リーグの確認

・DUOと地区トップリーグとの関係

岩野「地区トップリーグには、日大豊山Aが参入決定となりました。降格は学習院、江北の2チームです。また、試合結果によっては、京華も降格の可能性ががあります。」

玉生「T4リーグで3位になった三菱養和Bも、入れ替え戦に勝てばT3リーグに昇格します。」

3) リーグ戦以外の事業について

・栄養講習会

岸「開催について、丸山先生と相談します。3月に来年度に向けてのDUO会議があるので、そこにぶつけると思う。」

・リサイクルプロジェクト

岩野「佐藤さんが多忙のため実施できていない状況です。」

4) 2014年度決算

岸「事務局長の岸が取り掛かっていると思います。帰国してからになると思います。」

4. 2015年度の準備

・2015年度以降のリーグ戦について

岩野「2015年度の前期は、1部リーグは8チーム×2ブロック制、2部リーグが3ブロック制になると思います。これまでで議題として挙がっているのが、大人のチームとして、特別参加をしているG本郷とFC西巣鴨03についてです。その日集まるメンバーで強さが変わったり、試合の最後まで体力が持たないなど、不公平があるという意見もありました。また、DUOリーグの理念を理解しないままプレーをしていたり、マナーやモラルを守れていないことなども見受けられます。たとえば、G本郷が参加しても、G本郷との対戦結果を抜いた順位表をつくるなどの案があります。高校生でも、退部の関係でメンバーの一定化ができていないところもあります。また、大きな課題としては、次の2つです。1つ目は、前期リーグの最終順位を7月末までに決定し、8月中には順位決定戦を行うということでした。しかし、日程調整が難しく、1部リーグとの入れ替え戦が10月までずれ込むということがありました。日程がずれ込んでしまった原因としては、G本郷がチャンピオンシップに参加した関係もあった。2つ目は、1部リーグが8チーム×2ブロック制で行ったことが、正しいリーグ戦だったのか、チーム間の力の差がなくリーグ戦を行えたのか、16チームの1リーグ制の通年制にすれば、順位決定などの日程調整もなかったのではないかと思います。」

宮坂「1部リーグに関しては、通年でやったほうが良いという意見を出しました。前期と後期に分かれていると、期限を決められているので余裕をもって試合に臨めなかった。地区トップリーグに上がってからも降格することがないように力をつけてほしいと思います。1部リーグを1ブロック制にして、ホーム&アウェイで実施をするなどの工夫もあると思います。」

岩野「1部リーグを1ブロック制にすることについて、みなさんの意見を伺いたい。この意見をまとめて、今後の理事会でも参考にしていきたい。」

石原「1部リーグに関しては、1ブロックでいいのかと思います。2部リーグに関しては、4ブロックにしたほうが、昇格のチャンスがあるのでそのほうが良いと思います。」

岩野「以前、3部リーグにすることに対する反対意見もありました。」

玉生「1部リーグで起きた格差が、2部リーグで起きてしまったら、その時に考えればいいのかと思います。」

智片「1部リーグで格差があるのであれば、2部リーグでもあり得る話だと思う。そこは考えないといけないと思う。また、1部を10チームにすることについて、下位3チーム、もしくは4チームも落ちる。そうすると、半分のほどのチームしか残留できない。1部のチーム数を12チームにするなどチーム数を増やしたほうが良いと思う。」

岩野「2部を4ブロックにすると、せっかく優勝したのに昇格権を得られない場合がでてくる。」

小金丸「地区トップリーグとT4の関係は、そうだと思います。」

岩野「智片先生の意見のように、12チームなどに幅を持たせてもいいと思います。」

宮坂「1部リーグのチーム数を増やすことはかまいません。リーグ戦本来の文化として、3年生の引退があれど、”託していく”ということも必要ではないかと思う。」

大河原「2部リーグに関しては、入れ替えだけではないところも、特別な配慮が必要ではないか。」

永井「2部リーグが3ブロックのときは、三つ巴戦によって昇格を決めていました。私としては2部が3ブロックに違和感がある。育成と強化は難しいですが、グラウンドもあまりない。1部リーグも1ブロックのほうがいいと思う。未消化の試合はないほうがいい。」

岩野「1部リーグは1ブロックという話になっていますが、焦点は2部リーグをどうするかだと思います。2部リーグを4ブロックにするのか、3部リーグをつくるのか。」

蓑輪「確認をしたいのですが、同一リーグに同じクラブがいることはできないのではないか。」

岩野「地区トップリーグやTリーグでは認められていませんが、DUOリーグは認めています。」

岩野「もう1つ考えなくてはいけないのは、3部リーグをつくるとなると、試合日程を組んだり、役割分担も必要なので、人員が必要になります。」

遠藤「やはり、同一リーグで点差が大きく開く試合があることは問題だと思います。3部リーグにして、拮抗した試合を選手にさせて成長させるのか、運営上のメリットをとるのか、皆さんの意見を反映させて、この後の理事会の話を進めていきたい。」

・2014年度以降のリーグ戦以外の事業について

岩野「理事会では、とくになにもありませんでした。」

5. その他

・サロン2002公開シンポジウム報告書「スポーツクラブの法人化を語ろう」への寄付金拠出

岸「DUOリーグから、3万円拠出があったということだと思います。」

・今年度の三菱養和

岩野「日本ユースクラブサッカー選手権で優勝しました。DUOリーグからの祝福がないのは中塚先生が気になっていました。」

山本「夏の全国大会で優勝しました。会場は群馬県で、準決勝、決勝は三ツ沢公園陸上競技場でやりました。しかし我々はリーグ戦に最も力を入れてやっています。リーグ戦では、プリンスリーグ関東に降格ということになってしまいました。また、この場をお借りして、子供がお世話になっている学校もあるのでお礼申し上げたい。子供には、学業との両立をするように指導しています。」

・未加盟クラブでリーグ戦に参加しているチームについて

岩野「未加盟クラブが参加費等の振込先もわからない。試合結果報告も未加盟クラブもできない。未加盟クラブをそのままにしておいていいのかという問題があります。未加盟クラブが増えたとき、メーリングリストもつけないという問題もある。未加盟クラブを増やしてはいけないのではないかとことです。根本から見直す必要があると思います。」

遠藤「未加盟クラブの方が、メリットがある参加の方法が問題である。」

II. 各担当より

1. 事業部門(岩野)

1) 競技部(各リーグ責任者)

岩野「前期が終了しているので、特になんとも思いません。」

2) 審判部

小金丸「審判講習会を3月中には行う予定です。予定が決まったらMLで流します。嶋野先生から連絡がありました。」

3) 競技部

岩野「豊島学院と、都竹早が欠席しています。」

2. 管理部門(井上)

1) 経理部

井上「加盟費、前期参加費などの支払いについて、まだ支払いをしていないクラブは支払いをお願いします。」

2) 広報部

石原「今年度から、プログラムの部数を各クラブに任せていますが、このありかたを見直してもいいのかなと思います。」

3) 規律部

岩野「前期リーグで、退場選手がでたが連絡が入らないということがあった。そのほか、警告の累積の場合の連絡が入らないので、その動きをまとめたい。累積の状況を誰がまとめていくかをはっきりさせないといけない。」

宮坂「各リーグの記録担当が一番把握しやすいと思います。」

智片「各クラブには、規律部から連絡が入るほうがいいと思います。なので、各リーグの記録担当が宮坂先生に連絡を入れるというのでどうでしょうか。また、会場責任者が、前節までの警告の一覧を印刷し、把握しておくことも必要だと思います。」

岩野「マニュアルがあるといいですね。」

井上「私と宮坂先生のほうで話をし、次の会議に提案できるようにします。」

3. 企画部門(岸)

岸「ここでの内容は先ほど報告した本日のテーピング講習会、アイシング講習会の内容なので割愛します。そのほかは特にありません。」

Ⅲ. その他

岡田「今日はありがとうございました。本日のテーピング講習会、アイシング講習会は80名前後の参加がありました。内容としては各クラブに持ち帰っても使うことができるものにしました。また機会があれば実施したいと思います。」

高校生オブザーバー1「DUOリーグに多くの人がかかわっていることがわかった。感謝をしてしっかりやっていきたい。」

高校生オブザーバー2「今日は、ほかの地区のチャンピオンが集まって試合をやる中で、やりがいを感じました。テーピング講習会も勉強になりました。」

高校生オブザーバー3「一つ疑問に思ったことがあります。前期リーグ戦に経験が少ない高校生が主審をやっているのか、ということです。高校生が主審を経験する場として、後期イベントがあると思う。私は後期イベントよりもリーグ戦のほうが良いと思っている。チームを作るのであれば11人でリーグ戦を戦っていくほうが良いと感じた。この会議で考えさせられた。」

岩野「DUOリーグは、ユース審判の育成の場でもある。審判を高校生が積極的にやる方針です。」

高校生オブザーバー3「地区トップリーグとDUOリーグの差が開いていくのではないのでしょうか。」

小金丸「高体連の大会において、他の都道府県では、ベスト16まではユース審判でやっているところもある。このように先に進んでいるところもある。各クラブが、生徒にやっておけよっというわけではなくて、各クラブが責任をもって育成していけばいいと思う。」

智片「クラブだけでなく、リーグでも育成できる仕組みがあるといい。」

高校生オブザーバー4「会場校として運営したが、準備が大変だった。いつも練習試合を会場提供している先生方の大変さがわかった。」